

しん さく
新鑿水道

「上江用水掘り継ぎ」

― 用水路の開鑿、石の山を洞穿し ―

流れをつける翁の偉業 ―

鳥洗翁(下鳥富次郎)功德の碑文内容から引用

現在の上江用水(飯田川サイホン)と関川の恵みで潤される大区画ほ場



上江用水開削時の絵図



山腹を縫うように配置された上江用水



昭和初期まで関川を堰き止め
上江用水を取水していた(旧)取水口



現在の上江用水取水口(中央)
左は中江用水(予備放流)
右は東北電力(株)板倉発電所取水口

はじめに

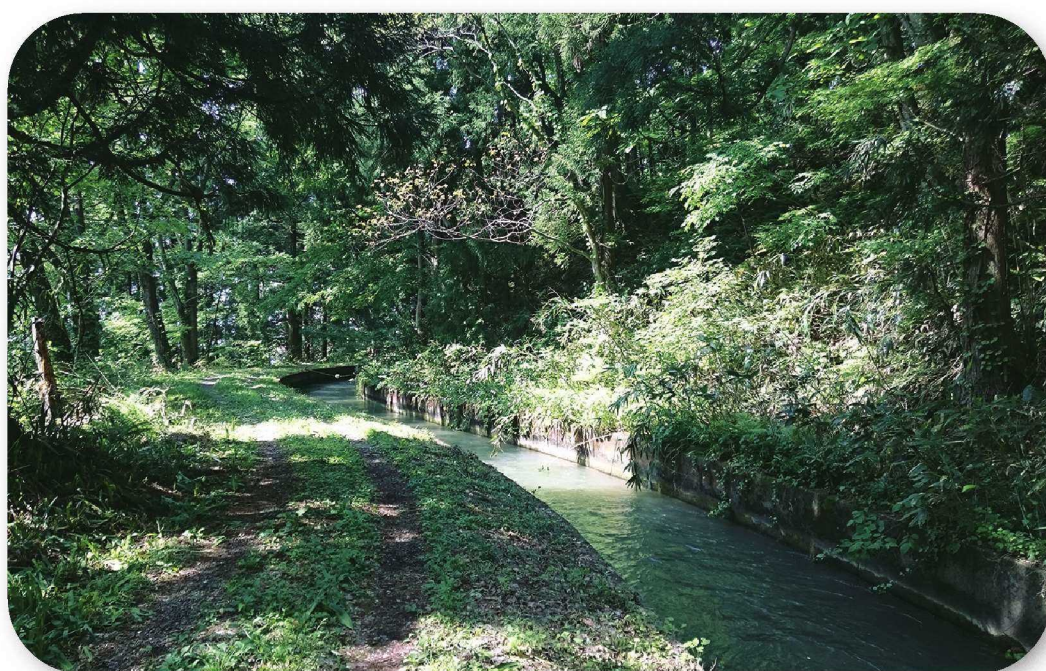
上江用水の開削は、越後における諸用水の開削の中でも最も早い時代に始まった。源流部の通水は安土桃山時代の天正年間（一五七三～一五九二年）と言われている。この用水路開削は農民の多年の労苦の成果として掘り継がれたことがの特徴である。

第一期工事は、一五七三年（天正元年）～一六四八年（慶安元年）、第二期工事は、一六五〇年（慶安三年）～一六九四年（元禄七年）、第三期工事は、七八年後の一七七二年（安永元年）～一七八一年（天明元年）である。工事期間は、述べ一三〇年にわたり、開削開始から、三期工事の通水まで約二〇〇年に及んでいる。

高田平野東部の山麓部は上方より、関川支川の大熊川、別所川、櫛池川、飯田川が流下し、上江用水路はそれらの河川を横断する。地すべり地帯を通過し、山をくり貫き、川の下を通す難工事の箇所が多々あった。特に「川上繰穴隧道」「三丈掘」などの農業土木構造物は、当時の土木技術がいかに高度なものであったかがうかがえる施設である。

また、上江用水は、現在も関川水系土地改良区によって維持管理され、地域にとっては重要なかんがい施設としての役割を果たしている。これらのことが評価され、平成二七年一〇月一二日に「世界かんがい施設遺産」に登録された。

本書は、かんがい農業の発展に大きく貢献し、卓越した技術により建設された上江用水路における歴史的・技術的・社会的価値を紐解き、紹介するものである。



山腹水路

もくじ

はじめに	1
第一章 我が国における農耕の歴史	
農業用水と土地改良	3
新田開発が進められた時代	4
水をつくる歴史	5
新潟平野の土地改良	6
第二章 上江用水の変遷と土木技術	
施設の特徴	7
施設の歴史的・文化的な価値	9
新田開発と開削工事の歴史	12
上江用水路の土木技術的特徴	15
第三章 先人達が残した上江用水の歴史を語る	22
おわりに	26



1915年米増地内 上江用水改修工事の様子